



2021年度

# 活動 報告書

千葉大学 総合学生支援センター  
『ふれあいの環』



# ご挨拶

国際未来教育基幹キャビネット 学生支援センター長  
下 永田 修二

今年度も新型コロナウイルスの感染対策を行いながらできる活動を模索していく1年となりました。この2年間、1、2年生の皆さんは通常の学生生活がわからず、上級生についても学生生活の中心となる時期をキャンパスで思う存分活動することができず、大変苦労したことと思います。ただ、この状況の中でもこれまで地域の子どもたち向けに行っていた防災イベント「ちばシティサバイバルキャンプ」をオンデマンド形式で参加者を募り実施するなど、今できることを模索し、実施していた姿には学生の皆さんの実践力を強く感じました。そして、少しずつ活動が広がっていくことが考えられますので、今後も状況に即した活動を考え、活動してほしいと思っています。また、ふれあいの環の学生スタッフの皆さんには、これまで学生間での交流ができなかった在学生同士がふれあうことができるよう取り組んでほしいと思っています。

最後になりますが、この1年間、ふれあいの環の活動を支えていただいた皆様に感謝申し上げますとともに今後の継続したご支援をお願いしたいと思います。

ふれあいの環 代表  
松本 陽菜

新型コロナウイルス感染症は未だに収束の兆しが見えず、今年度も引き続き、様々な活動が中止、もしくはオンライン形式への変更を余儀なくされました。

しかし、今年度から大学の対面授業が一部再開され、課外活動についても「新しい生活様式」に沿った「新しい活動様式」が浸透したことから、ふれあいの環として「大学生による学生支援」の理念に基づき、昨年度よりもより多様な活動を行うことができました。

ふれあいの環の活動も、いわゆる「コロナ世代」の学生が中心となってきました。これまでの活動を知る世代が卒業していく中、現在現役の世代の学生は、試行錯誤を繰り返しながら様々な活動を行っています。時代や環境の変化に柔軟に対応しながら、今までの活動内容にとらわれず、より自由に活動を工夫して行っていく事で、この1年でふれあいの環はより一段と成長することができました。

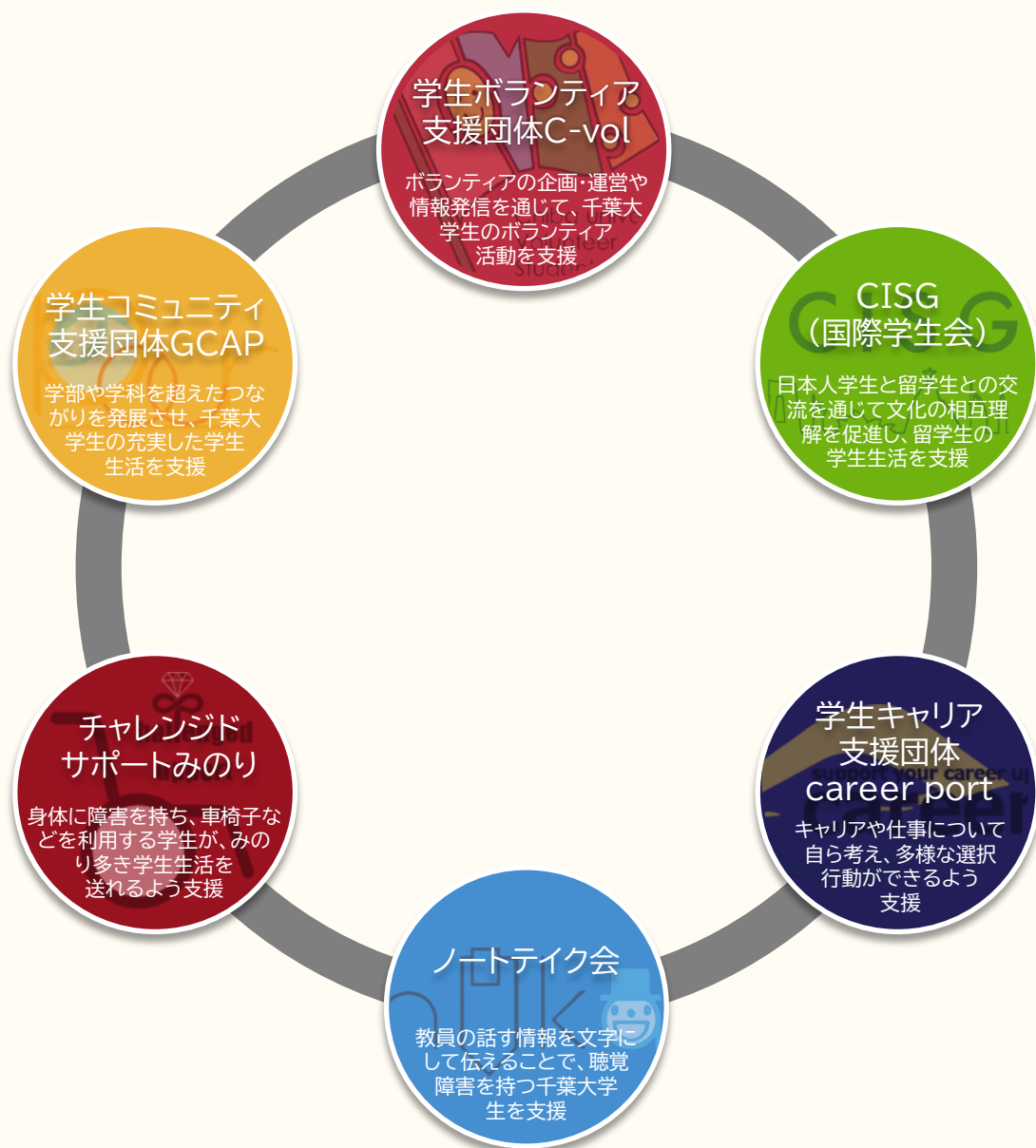
先の見えない状況の中、顧問の先生、教職員の皆様はじめ、活動を支えてくださった多くの方々に、この場を借りて心より感謝申し上げます。ぜひ、レベルアップしたふれあいの環の活動をご覧ください。

# ふれあいの環とは

「ふれあいの環」は、学生による学生支援活動(ピアサポート)やボランティア活動をはじめ、さまざまな活動を展開しています。

学生と学生、学生と教職員が相互にふれあいながら、イベントなどを通じて総合的な人間力を涵養することを目的に設立されました。

「ふれあいの環」では活動趣旨の違う6つの団体が活動しています。





「カタリベカフェ」とは、GCAPが不定期で行っているイベントで、一つのテーマについて参加者が自由に語り合う企画である。例年はお菓子や飲み物を片手に学内で行っていたが、今年度は全ての回でオンライン上での実施となった。

5月2日には、career port主催のイベントである「哲学対話」と、10月31日には、C-vol主催のイベントである「ボランティア報告会」と合同開催した。テーマはそれぞれ、「思いやりとは?」「ボランティアとは?」であった。他の団体と合同でイベントを企画したことで、カタリベカフェの改善点を発見することができ、今後の新たな活動に向けての期待も高まった。

各回とも、学生間の交流が減っていた中でのイベントであったこともあり、学生同士、学年や学部の垣根を越えて生き生きと話している様子が見受けられた。

日 程：2021年4月29日 参加者：各回学生5名程度

## 6団体合同オンライン説明会

ふれあいの環

ふれあいの環主催で「6団体合同オンライン説明会」を行った。今年度も対面形式での開催が難しかったことから、オンライン上での開催となった。このイベントは主に新入生を対象としており、ふれあいの環の活動を知ってもらうこと、ピアサポート活動に興味を持ってもらうことを目的としている。

団体ごとに時間を設け、パワーポイントによる活動紹介を行った。また、参加できなかった学生に向けて、各団体の活動紹介を動画として保存し、いつでも再生できるようオンラインならではの工夫を施した。

今年度は例年に比べ、新入生だけでなく多くの上級生にも活動に興味をもってもらい、多くの学生を迎えることができた。

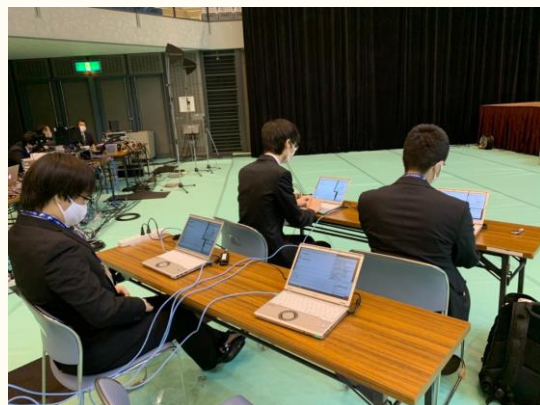


日 程：2021年4月29日 参加者：学生20名程度 教職員2名

千葉ポートアリーナで入学式が開催された。今年も昨年度と同様に感染症対策を徹底した上での開催となったが、本年度も無事に入学式が挙行され、活動を支援することができた。

慣れないスーツに身を包み、新たな生活に胸躍らせる新入生の姿が印象的であった。ノートテイク会は前方に設置されたスクリーンを利用しての字幕通訳という形の情報保障を行った。

多くの学生が注目する中、大きなトラブルに見舞われることもなく、ノートテイク会の活動の紹介にもつなげることができた。



日 程：2021年4月5日 参加者：学生5名程度

## 新入生サポート会

大学は単位の取得方法や課外活動の参加方法が高校と異なるため、戸惑ってしまう新入生は多く見受けられる。そうした新入生を先輩である学生スタッフがサポートするのが「新入生サポート会」である。

今年度は感染症対策を十分に行ったうえで対面形式で開催、期間も入学式前から履修登録期間まで長期にわたって設定することで、多くの新入生をサポートした。

新入生の相談では履修に関するものが最も多かった。また、全学生必須となった留学や資格の取得についての質問も例年に比べ多くあった。

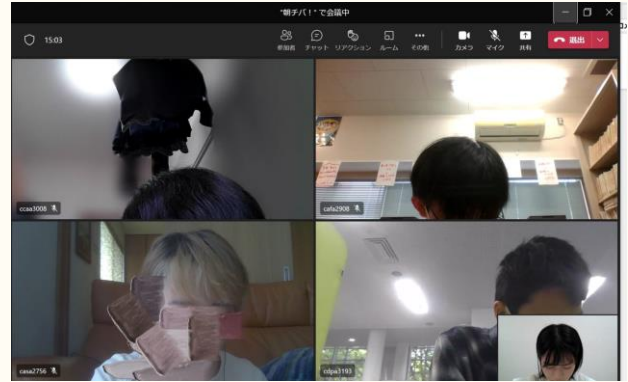


日 程：2021年4月1日、2日、8日～21日  
参加者：学生100名程度

朝チバ！とは、午前中を活動的にすることをモットーに、毎週月曜日、朝一時間半程度「朝活」を行うイベントである。

イベントの内容は、前後に報告やフリートーク後、各自自分の勉強や作業など、自分のやりたいことを全集中して行う、というものである。

貴重な朝の時間を活用し、一人ではなく、仲間と進捗を共有しながら進めることで、モチベーションを高く保つことができ、有意義な朝を過ごすことができた。



日 程：週1回 参加者：各回学生5名程度

## 千葉県少年自然の家

C-vol

千葉県少年自然の家では、1ヶ月ごとに、千葉県少年自然の家で、小学生を対象に行われる「マンスリーウィークエンド」をはじめとした子供向けのイベントを多数開催している。

C-volでは、各種イベントごとに参加メンバーを募り、ボランティアとして子供達と一緒に自然の家のプログラムに参加している。

コロナ禍に入っていた2021年度からは、宿泊を伴うマンスリーウィークエンドへの参加は難しくなってしまったが、C-volとしては同じく自然の家主催の「デイキャンプ」や「わいわいフェスティバル」というイベントにも参加し、充実した活動を行うことができた。

日 程：月1回 参加者：各回学生5名程度

ノートテイク会の活動は、主に聴覚障害を持つ学生への情報保障、練習会、研修会で構成されており、特に力を入れているのは「ノートテイク練習会」である。情報保障の質を落とさないよう、学生のスキルアップを目的に、週に一度開催している。講義の資料や専用ソフトなどを用いて実際の授業に近い雰囲気を作り、専門用語を聞き取る練習を行っている。

2021年度も、オンラインでの練習会がほとんどとなったが、一年生をはじめとする会員が積極的に参加し、各自のノートテイクの技術を高めることができた。2, 3回ほどはノートテイク会の部屋で対面練習会も挙行でき、昨年度よりも活動の幅を広げることができた。



日 程：週1回 参加者：各回学生5名程度

## ファシリテーター研修会

GCAPが、ふれあいの環の学生に向け、「ファシリテーター研修会」を実施した。「ファシリテーター」とは、あくまで中立的な立場で会議などの適切なサポートを行う人のことを指す。「ファシリテーター研修会」では、ファシリテーターとしての役割や技術などを学び、会議やミーティングを円滑に行うコツを身につけることを目的としている。

研修では、GCAPのメンバーを講師として座学を行った後、一人ずつファシリテーターとなって実践練習を行った。座学では、会話の動かし方や、目の配り方など、ファシリテーターとして必要なスキルについて学んだ。実践練習では、「タイムトラベル」を題材として模擬ミーティングを行い、最後にGCAPのメンバーがフィードバックをした。その後、座学で学んだことを実際にどのように生かすのかや、会話の中でのファシリテーターの立ち振る舞い方などについて考えを深めた。

日 程：2021年5月～6月 参加者：各回学生5名程度



チャットルームとは、留学生と接することを通じて、お互いの文化と交流することを目的としたイベントである。今年度は週一回の頻度で実施した。

2020年度は開催することができなかつたものの、今年度はオンライン形式を活用し、2年ぶりの開催となった。対面実施の時と同様に、留学生とともに雑談やゲームなどを楽しんだ。

昨年度に引き続き、新たな留学生を迎え入れることができない中、オンライン上ではあるものの、留学生とお互いの文化の交流を楽しむことができた。



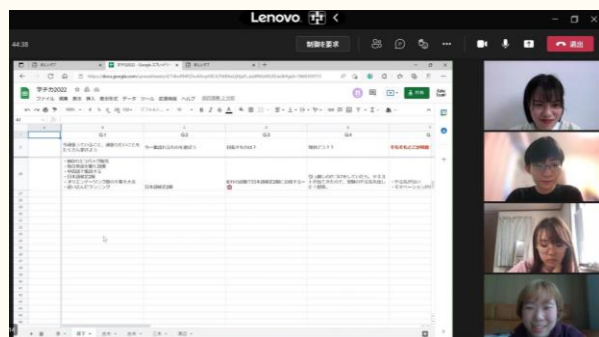
日 程：週1回 参加者：各回学生10名程度

## 無敵ガクチ力会

career port

「ガクチ力」とは、「学生時代に力を入れたこと」を略した言葉であり、就活用語としてよく用いられる。無敵ガクチ力会は、それぞれの学生が力を入れて頑張っていること、また頑張りたいことについて宣言するイベントである。

月1回、オンライン上で開催した。イベントの中では、それぞれの頑張りたいことのほか、それが何が原因でできていないのか、どう対処したら良いのか、など問題点の深堀りも行い、メンバーからアドバイスをもらいながら目標達成を目指した。目標を口に出して仲間に宣言することで、やる気の向上にもつながった。



日 程：月1回 参加者：各回学生7名程度



七夕ウィークとは、総合学生支援センター1階の一角に七夕の笹と短冊を設置し、センター利用者が自由に短冊の記入・飾り付けをする企画である。

キャンパスに少しずつ学生が戻ってきたことから、2年越しに開催することができた。今年はオンラインでも願い事の募集を行った。

飾られた短冊に書かれた願い事は、勉学に関するものから恋愛に関するものまでさまざまであった。また、感染症によって先が見えない状況のためか、自身や家族の健康を願うようなものが多かったことが印象的であった。



日 程：2021年7月上旬 参加者：学生114名

## キャンパスクリーンイベント

C-vol

キャンパスクリーンイベントは、参加したメンバー同士で交流しながら、自分たちが普段利用しているキャンパスを楽しく掃除することを目的としたイベントである。

第1回目は1年生を中心に、2年生や3年生も参加し、二手に分かれてキャンパス内を回りながらゴミ拾いを行った。

自分が普段よく使っている範囲以外の場所にも行くことができ、キャンパスの広さを改めて実感した。先輩や同級生とも交流を深められ、充実した時間となった。



日 程：2021年11月1日 参加者：学生10名

縁joy東北は、東日本大震災の復興支援活動を目的にしたイベントである。C-volは参加団体の一員としてイベントの内容の考案に協力したり、当日や前日の受付・準備のボランティアを行った。

2021年度は、被災当事者が撮った写真と声の展示や、千葉県内の支援団体を紹介するパネル展示が行われた。また、福島県出身の被災者による講演会やよさこい踊り、箏の演奏等が行われ、C-volは展示設営や運営補助などを行った。

震災から10年以上の時を経たが、縁joy東北を通して、これからも被災された方々の思いは受け継がれていくだろう。



日 程：2021年11月2日～11月5日 参加者：学生3名

## Universal Festival ～過去から未来へつなげるUF～

Universal Festival(以下UF)とは、CISGが年に2回開催している、千葉大学に在籍する留学生たちが自国の歴史・文化などについて発表するイベントである。学内外問わず多くの方々の国際理解を深めることを目的としている。

今年度は、前期と後期の2回開催となった。昨年度に続き、オンライン開催となった今回のUFにおいても、昨年度同様千葉大学への留学経験がある留学生の発表、また、CISGのメンバーによるUFの歴史に関する発表も行われた。今年度も会場での開催はかなわなかったものの、UFの開催を途切れさせることなく、次年度へ繋ぐことができた。



日 程：2021年6月24日、12月9日 参加者：各回学生10名、教職員5名程度

千葉県インターンシップ推進委員会が主催する「千葉限定キャリアインカレ(ビジネスコンテスト)」に参加した。ビジネスコンテストとは、複数の企業が提示する課題の中から自分たちが取り組む課題を選択し、その課題に対する解決策をチームで考える、というものである。

千葉大学からは2チームが参加し、12月の本番に向けて7月ごろから準備を行った。

入念な準備の甲斐あり、結果として全部で40チーム、130人の参加者の中で、優勝することができた。参加した学生にとって、企業とともに考え、課題を解決していくという、普段経験できない貴重な経験となった。



(使用資料:15ページ)

日 程：2021年12月16日 参加者：学生6名

## ボランティア報告会

C-vol

「ボランティア報告会」は、参加したボランティアの内容や活動を通して感じたことを発信するイベントである。ボランティアに興味のある学生を対象とし、経験者の体験談を聞いてボランティアへの意欲を高めてもらうこと、未経験者がボランティアに対する不安を解消することを主な目的としている。

今年度は、C-volの学生がボランティア活動の報告を行った。各発表者は、秋ごろに行われた「CCSCロープワーク研修会」と、「子ども食堂」についてそれぞれの活動内容と、経験して感じたことを詳細に報告してくれた。報告の後は、GCAPの協力の下「カタリベカフェ」を実施し、ボランティアの意義や役割について理解と考えを深めた。



(写真は2020年度のもの)

日 程：2021年12月19日 参加者：学生13名 教職員2名



日頃からお世話になっている教員・職員の方々に向け、年賀状を製作した。

挨拶や感謝の文の記載に加え、「今年叶えたい夢」というお題を設定し、学生の回答を集めて掲載。教員・職員の方々に学生の新たな一面を知っていただき、学生にとっても良い目標設定のきっかけとなった。所属している団体や学年等関係なく1つのデザインを作成し、団体内のつながりを認識できる機会とすることができた。

完成したものは、教員・職員の方々を直接訪ねて手渡しした。学生同士も繋がりを深めることができた。



日 程:2022年1月上旬 参加者:学生11名

## 就活の始め方

career port

就活支援を行っているNPO法人「エンカレッジ」と共同で、就職活動が始まっている3年生、またこれから就職活動を行っていく1,2年生を対象に、就活についてのレクチャーを行った。

イベントでは、就活経験者による就職活動の体験談などの講演や、自己分析の実践を行った。

大学までと違い、就職活動では自ら進んで情報収集して行動しなければならない中、先輩から具体的な体験談を聞くことで、1,2年生にとっては就職へのイメージを深める機会に、また既に就職活動が本格化している3年生に対しては、個別相談も受け付け、就職活動に向けての不安などを解消する機会となった。



日 程:2022年1月31日、2月5日 参加者:学生60名



稲毛区役所にて行われたボッチャ大会に、C-volとして初めて参加した。大会には、小さな子供から高齢者まで、様々な年代の人々がチームを組んで参加しており、試合を通して一緒にボッチャを楽しんだ。

C-volも、設営スタッフとして、また出場チームのひとつとしても大会に参加し、見事総合優勝を果たした。稲毛区役所の職員の方や、他の参加チームのメンバーとの交流の機会も多く、非常に充実した時間になった。

試合終了後は、それぞれのチームで親善試合を行い、試合に出ていなかったメンバーもあわせて、会場全体でボッチャを体験できた。



日 程：2022年2月19日 参加者：学生6名、教職員1名

## 卒業式

ノートテイク会

入学式同様、卒業式においても、ノートテイク会は前方に設置されたスクリーンを利用したの字幕通訳という形の情報保障を行っている。

千葉ポートアリーナにて卒業式が開催された。式典は、昨年度と同様にオンラインでの配信を行いながら敢行された。

晴れ着に身を包み、新たな門出を前に学友と一堂に会する機会を持てたことで、卒業生は充実した学生生活を振り返ることができたことだろう。

入学式同様、大きなトラブルに見舞われることなく当日活動することができ、卒業生にとってはノートテイク会としての最後の仕事の場に、また在学生にとってはお世話になった先輩方とテイクをする最後の機会となった。

日 程：2022年3月23日 参加者：学生4名

千葉市内の小学生を対象にしたイベント、「CCSC(ちはシティサバイバルキャンプ)」を開催した。

CCSC は、災害時に役立つ知識を、体験プログラムを通して楽しく学ぶことを目的としたイベントである。2021年度は初のオンラインでの開催となり、企画の準備段階から例年と異なる部分が多かったが、その分、オンラインの特徴を生かしつつ、例年とは違う新しい内容に挑戦できたCCSCとなった。

### ①クイズ

クイズ企画では、冒険の旅を模したクイズを作成し、子供たちにわかりやすく、楽しみながら防災知識に触れてもらえるよう趣向を凝らした。また、クイズ参加者には防災に関する知識が一目でわかるようなシートを配布し、いつでも気軽に防災知識が確認できるように工夫した。

### ②工作

工作では、「災害に備えて作ってみた」と題し、新聞で作る食器や、牛乳パックで作るホイッスルなど、身近な素材を使った防災グッズの作り方をPDF形式で紹介した。また、懐中電灯やポリ袋で作るオリジナルランタンのコンテストを実施し、コンテスト参加者には災害時に役立つ料理のレシピを送る、といった子供たちが主体的に参加できる企画も取り入れた。

### ③ロープワーク

ロープワーク紙芝居を作って、簡単なものから難しいものまで、幅広いレベルの結び方をストーリー仕立てで紹介し、子供たちが自宅でも取り組みやすいよう工夫した。また、目標タイムを設定し、ロープを結び終わるまでのタイムを計測するチャレンジコーナーも設け、子供たちのロープワークの技術面での上達も目指した。



(使用資料:16ページ)

## 提案内容

飯沼本家の敷地内の一部を、昼間は**コワーキングスペース**として活用し、夜は**イルミネーションでライトアップした会場にて夜の角打ち**を開催する！

### ●提案の概要

私たちは飯沼本家の強みを活かし、**若者に興味を持ってもらいやすくするため**にこの企画を提案します。酒蔵にコワーキングスペースを設置しますが、お酒を飲みながら作業をしてもらうわけではありません。昼間は**飯沼本家の自然を存分に感じながら**そのコワーキングスペースで勉強等の作業をしていただき、夜にはお酒を楽しんでもらうという内容です。

### ●提案の三本柱

酒蔵に**コワーキングスペース**という**インパクトのあるサービス**を提供することにより、多くの人から注目を集めることができます。また、「夜の角打ち」はイルミネーションを施した**インスタ映え**する幻想的な空間でお酒を楽しめる、多くの人に魅力的に感じてもらえる企画です。

酒蔵



コワーキングスペース



夜の角打ち

### ●目標

この提案は飯沼本家の目指している**日本酒文化をより多くの人に知ってもらうこと**や、**若者を含めた来蔵者の数を増やすこと**を目標としています。

### ●提案の目次

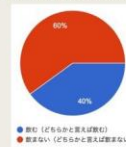
目標達成までの流れ
一日を過ごす来蔵者の行動イメージ
来蔵者が増える仕組み
ペルソナ
アイデア①コワーキングスペースについて
なぜコワーキングスペースなのか
飯沼本家との親和性について
アイデア②夜の角打ちについて
インスタグラム活用の重要性
日本酒が飲みたくなる空間づくり
飯沼本家との親和性について

## 分析②(アンケート結果)

若者が日本酒についてどう思っているか、どのような日本酒をどのような状況で飲みたいのかを調査するためにアンケートをグループフォームで作成しました。そしてチームのメンバーの友人や知り合い40名にアンケートに協力してもらい詳しく調査を行いました。その結果がこちらになります。

### Q1: 日本酒を飲むかどうか

— 若者の半数以上の6割が日本酒を飲まないと回答しています。



### Q2: どうやって日本酒と出会ったか

— 「飲み会の場で出会った」と回答した人が6割でした。(16人中10人)

- お店で興味を持ったから
- インターの飲み会 父の勧め
- サークル飲み会
- 友人との飲み会
- 友人と居酒屋での飲み会
- 友人に勧められた
- 美事
- 家族が好きでよく買っていた
- サークルの飲み会で飲み放題の日本酒を飲むまで不味く感じた。その後福島県会津若松を旅行した際、蔵元で飲んだところでも美味であり、好きになった
- 母親と居酒屋で勧められた
- 街中でばったり
- 酒蔵との飲み会の席で
- 通商へ訪れ試飲、友人との飲み会
- 飲み会

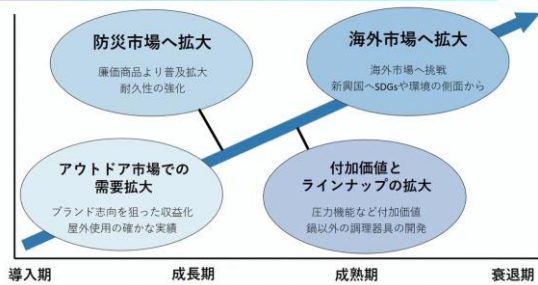
### Q3: どうして日本酒を飲まないのか

— 日本酒が苦手であること以外に「**飲む機会がないから**」と回答した人がとても多かったです。

飲む機会がないため	そもそもお酒を飲まない
お酒が苦いから	飲むと回答しましたが、飲めなかった時を思い返し回答いたします。以下回答。
飲むと回答しましたが、飲めなかった時を思い返し回答いたします。以下回答。	アルコール度数が高い。甘い。一緒に飲む食べ物を選ぶ必要があるため。
アルコール度数が高い。甘い。一緒に飲む食べ物を選ぶ必要があるため。	お酒が苦いから
飲む機会がない	そもそもお酒の味が苦手
お酒を飲まないから	お酒自体が好きというわけではないから。
匂いが苦手	度数が高く飲みづらい
日本酒の味が好みではない	飲む機会がない
飲む機会がない	匂いが苦手
	お酒を飲む習慣がないから

味が苦手
飲む機会がない、そもそもお酒の味が苦手
日本酒の味が好みではない
後味のアルコールが強く、深く酔いそう怖い
度数が高く、飲みにくい
飲む機会が無い
(自分は日本酒飲むけど)飲み放題で日本酒飲んだ時の安酒感は、今後二度と飲みたいと思える程に強烈だった。(みどり台の養老乃瀧は除く)
まずいから
飲む機会が無い

## ビジネスプラン 一中期プラン

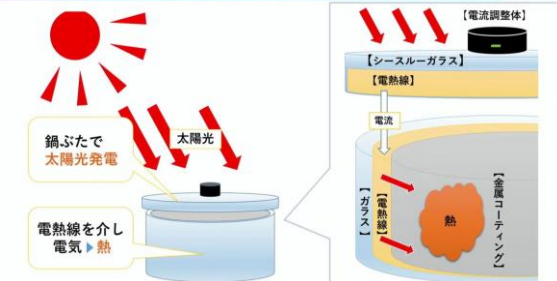


## アウトドア市場について③

### アウトドア業界の売り上げ増加

株式会社スノーピーク snow peak	株式会社カンセキ WILD-1
2021年 純利益	2021年2月 営業収益
<b>+146.6%</b> (前年比)	<b>+123.6%</b> (前年比)

## 商品コンセプト





## CCSC 工作

ぎゆうにゆう つく  
牛乳パックでホイッスルを作ろう！



- きれいな音が出る！
- 家にある材料でできる！
- 災害に備えて作ってみよう！

### 用意するもの

- 開いた牛乳パック
- マジックペン
- 定規
- はさみ
- セロハンテープ



①はさみで牛乳パックの一面を切り出す

②2cm間隔で印を4つ付ける

③1.5cm離れた所に印を付ける

④反対側も同じように印をつける

⑤上下の印をつないでたて線を引く

⑥2cm間隔でたてに点をつける

⑦青線の部分を内側に折って、折り目を付ける

⑧箱型になるように重ねる

⑨箱型が崩れないようにセロハンテープでとめる

⑩口で吹く部分を折り曲げ、できあがり！

※参考動画  
はいくらいふ「牛乳パックの作りおきもちゃ「オリジナル笛」の作り方」<https://hoiku-me.com/activities/day/218/>

⑦印に合わせてよこ線を引く

⑧使わない部分を切り離す

⑨赤線の部分を切る

⑩青色の部分を内側に折る

⑪セロハンテープでとめる

⑫青線の部分を内側に折って、折り目を付ける



## 6団体 代表挨拶



2021年度は私たちC-volにとって、リスタートとスタートが交わる1年となりました。千葉市少年自然の家でのボランティア活動など、新型コロナウイルスの影響により中止していた活動が再開する一方、大学構内をめぐりながら清掃を行うキャンパスクリーンイベントなど、新たな活動も開始しました。

コロナ禍により学生がボランティア活動に関わる機会が失われてしまった今こそ、私たちC-volの必要性が問われていると考えています。2022年度はこれまでの活動を発展させ、支援を求める人々のニーズに柔軟に対応しつつ、より多くの学生・職員の方々がボランティア活動に関わる支援を行えるよう活動して参ります。

学生ボランティア支援団体 C-vol 代表  
辻 尚 樹



2021年度、GCAPでは新入生サポート会・カタリベカフェという学生交流イベントの企画運営を行い、学生間のコミュニティの形成や拡大に努めて参りました。新入生サポート会は感染予防対策を徹底して対面形式で実施致しました。カタリベカフェにつきましては、昨年度と同様にオンライン形式での開催となりました。今年度における活動の教訓として、対面形式での実施では多くの学生に参加していただきましたが、オンライン形式では参加者がそれほど集まりませんでした。

今後は実施形式を臨機応変に選択しながら、多くの学生に参加していただけるように、カタリベカフェを始めとした様々な企画に取り組んでいきたいと考えています。

学生コミュニティ支援団体 GCAP 代表  
柴 田 昇 吾



コロナ禍によって、2020年度から2021年度にかけて活動内容の見直しを迫られることとなり、難しい時期となりました。来年度については、代替わりも含めてニューノーマルに合わせた新しい活動内容を作っていける一年にしていきたいと思えます。既年度に作成したバリアフリーマップはキャンパスの変化に合わせて更新する必要が出てきており、その活動についても進めていければと考えております。いろいろなアイデアを出しながら、刺激のある活動ができればと思えます。

チャレンジドサポート みのり  
開 沼 優 希

## 6団体 代表挨拶



ノートテイク会では、聴覚障害を持つ学生への情報保障を行っています。同時に、学内での聴覚障害に対する理解を深めることも活動意義の一つです。

昨今の事情から活動形態が絶えず変化を求められる中、多方面の方々より協力を得ながら利用学生に寄り添った支援を模索してきました。

今後も、会員一丸となって学生のニーズに寄り添った支援を目指していきます。

ノートテイク会 会長  
伊藤 涼花



私たちは千葉大生のキャリア支援を目的に活動しています。2021年度には、前年度同様の朝活イベントや学チカイベントに加え、起業家の方とコラボしたイベントや他の就活生支援団体と協力して新3年生のための就活の始め方講座を開くなど、団体内に限らない活動もしてきました。いずれも多くの学生が参加してくれました。また、ビジネスコンテスト「千葉限定キャリアインカレ」において私たちが募集、チーム結成をした千葉大のチームが優勝したことも特筆すべき出来事でした。

今後もより多くの千葉大生が早いうちから自分のキャリアについて興味を持ち、動き出し、能力を高め、そして自分の納得いくファーストキャリアを掴めるよう、それを後押しする団体となることを目指して活動をしていきます。

学生キャリア支援団体 career port 代表  
泉 夏帆



私たちは、留学生の学生生活や日本語力向上の支援を行う団体です。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、来日できる留学生の数は制限されていましたが、オンライン等の活動を通して留学生とのつながりを継続することができました。また、年2回開催する「ユニバーサルフェスティバル」と呼ばれる、留学生自身が日本語で自国の文化等を紹介するイベントは、来年度は対面で実施する予定です。

今後も留学生の気持ちの拠り所になるような団体でありたいと思います。

CISG (国際学生会) 代表  
佐々千佳

ふれあいの環

表紙デザイン : 能島青花  
裏表紙デザイン : 信太郁美  
本文デザイン : 佐久間心菜